



全日病 S-QUE 看護師特定行為研修

感染に係る薬剤投与関連

区分別科目



(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与
病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準
(ペーパーシミュレーションを含む)：肺炎

埼玉医科大学総合医療センター

岡 秀昭 氏

ペーパーペイシエント 肺炎

埼玉医大総合医療センター
総合診療内科・感染症科
岡秀昭

Case 1 50歳の女性

50歳女性

主訴:発熱、咳

現病歴:3日前より、38℃超える発熱と喀痰伴う咳あり、
救急外来受診。

生活歴:機会飲酒、喫煙20本30年、旅行歴温泉歴なし、
特殊な暴露歴なし。

来院時バイタル:

E4V5M6,118/72,38.2℃,HR110,RR22,Sp94

身体所見:右下肺野背側にヤギ音あり。

Q

- 〇鑑別診断をあげてください
- 〇行うべき検査は？
- 〇重症度を評価してください
- 〇治療薬は？

Case 2 86歳の男性

- 〇発熱と咳、膿性痰の増加で受診
- 〇肺炎の診断となり入院加療
- 〇市中肺炎と考え、セフトリアキソンを開始

Case 2 86歳の男性

3日後も解熱せずに呼吸状態悪化し、人工呼吸管理へ。

喀痰より緑膿菌が検出。

医師が原因菌と判断。

○ 1ヶ月前 COPD増悪

○ 3ヶ月前 胆嚢炎

Q

○ この患者さんへの抗菌薬の投与を
特定行為修了看護師が検討しても
良いでしょうか？

Case 3 53歳男性

- 食道癌術後5日目に人工呼吸器関連肺炎を併発。
- ピペラシリンタゾバクタムを開始。
- 4日しても発熱、炎症反応が持続。

カルバペネム系へ変える？

Q

- 肺炎の効果判断はどのように行いますか？
- 熱や炎症反応が低下しない場合、どのように考えますか？